

春季出荷ストックの温室内トンネル処理による切り花伸長と開花期延長

春季に出荷するストックでは草丈が不足する傾向にあり、品質低下が問題となっている。そこで、春季出荷の作型で温室内トンネル被覆による高温処理の効果を検討した結果、到花日数は増加し、切り花長が長くなる傾向がみられ、品質向上と開花期延長・出荷期間拡大につながる事が明らかとなった。

内 容

ストック「ピンクアイアン」を2015年1月7日に播種し、3月10日に淡路農技アクリル温室内に株間、条間とも12cmで8条植えた。処理区は定植後4(4W)、6(6W)及び8(8W)週間の高温処理区及び無処理区の計4区、3反復とした。二重トンネル被覆による高温処理は、定植翌日に農POフィルム(無孔、0.1mm厚)を用い、灌水時を除いて昼夜ともに密閉した。栽培管理は慣行に準じた。

その結果、到花日数は8W区で4日増加し5月11日に開花、節数は全ての高温処理区で多くなった。切り花形質では、切り花長が高温処理区で長くなり、切り花重には差がなかった(表、写真)。茎の硬さはすべての区で硬く(データ省略)、十分な品質を維持していた。高温処理に伴う間延びなどの悪影響は認められなかった。ストックは低

温に反応して花芽分化するが、高温処理で花芽分化適温の高温限界以上とすることで栄養生長を続けることになり、節数、切り花長が増加したと考えられた。

以上の結果から、ストックの1月播種では、定植後4週間以上高温処理することで節数が増加し、同時に切り花長が長くなることから、品質の向上効果が認められた。また、8週間の高温処理で開花を遅らせることができたことから、高温処理により開花期の延長・出荷期間の拡大につながる。

今後の方針

トンネル処理は、産地ではこれまで4月出荷で実施されているが、本試験により5月出荷でも切り花長が長くなることが明らかとなり、作期の拡大・品質向上を進めていく。

石上 佳次(淡路 農業部)

(問い合わせ先 電話:0799-42-4880)

表 高温処理がストックの到花日数、切り花形質に及ぼす影響

処理区	到花日数 ²	切り花長(cm)	切り花重(g)	節数
無処理	120.8 a ¹	53.0 a	71.8 a	41.8 a
高温4W	121.6 ab	61.8 b	70.0 a	49.9 b
高温6W	120.8 a	64.0 b	66.7 a	49.0 b
高温8W	124.9 b	62.8 b	60.5 a	51.2 b

²播種日から収穫日までの日数

¹異なるアルファベット間に有意差あり(5%レベル)

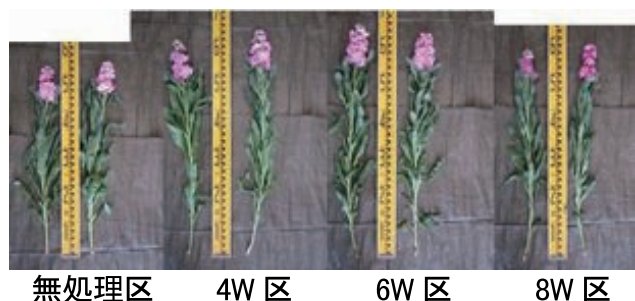


写真 各処理の切り花の状況